



株式会社セック

Systems Engineering Consultants Co.,LTD.

<http://www.sec.co.jp/>

銘柄コード:3741

2017年3月期 決算 説明資料

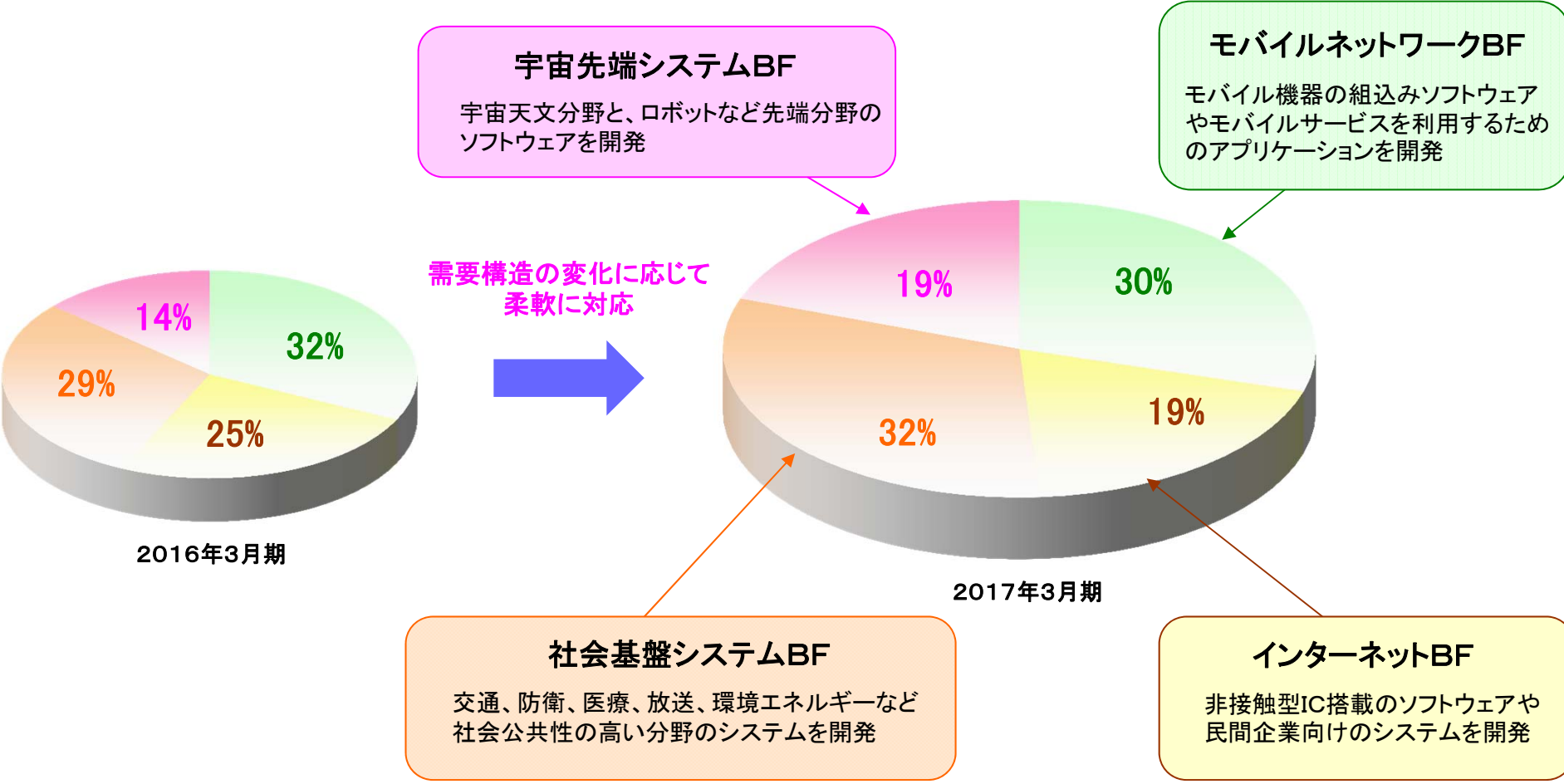
2017年5月31日

<目次>

- **事業分野**
- **決算概要（2017年3月期）**
- **今期業績見通し（2018年3月期）**
- **注力分野の状況（ロボット）**

事業分野（BF）

リアルタイム技術が得意とする4つの分野

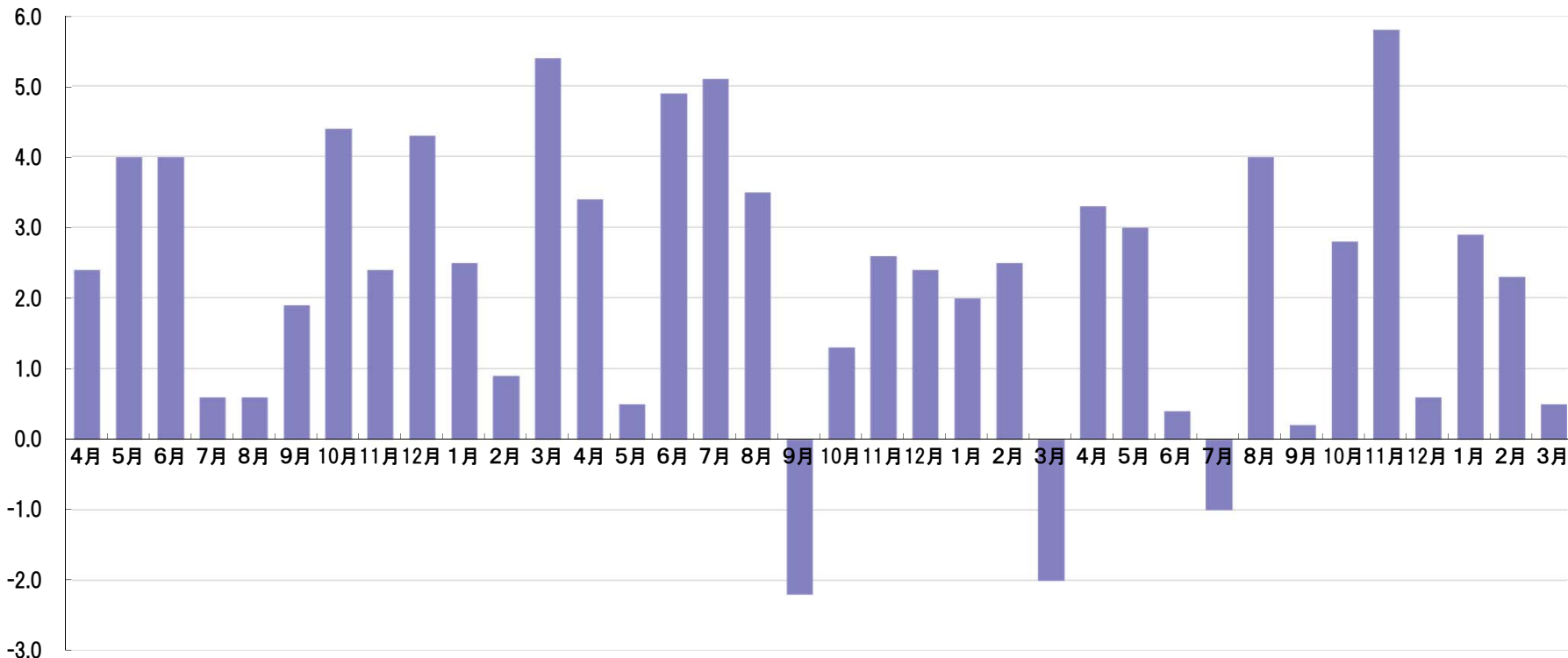


※2017年3月期よりBFを変更しております。2016年3月期の数値は変更後のBFに組み替えております。

決算概要 (2017年3月期)

2017年3月期の事業環境

単位：％ 情報サービス業売上高前年同月比推移(経済産業省：特定サービス産業動態統計)



2016年7月までは月別売上高が前年同月比で増加、減少を繰り返していたが、8月以降は増加で推移しており、IT需要は全体的に堅調と推察される。

2017年3月期総括

売上高、利益面ともに修正予想は上回ったものの、前年同期比では減収減益

売上高	: <u>4,424</u> 百万円	前期比	4.1%減		
営業利益	: <u>433</u> 百万円	前期比	32.5%減	利益率	9.8%
経常利益	: <u>456</u> 百万円	前期比	30.9%減	利益率	10.3%
当期純利益	: <u>314</u> 百万円	前期比	29.6%減		

受注高、受注残高はともに過去最高

受注高	: <u>4,670</u> 百万円	前期比	0.8%増
受注残高	: <u>1,443</u> 百万円	前期比	20.6%増

既存分野で業績を支え、成長分野に投資して継続的な成長を目指す

- 社会基盤システム分野の放送案件で不採算プロジェクトが発生し、減収減益
- 官公庁案件が堅調に推移し、社会基盤システムBFは増加
- 車両自動走行やロボットの研究開発案件が増加し、宇宙先端システムBFが大幅増加

東証市場第二部に市場変更（2017年3月）

- 社会的な信用力の向上を活かして、さらなる成長を目指す

損益計算書

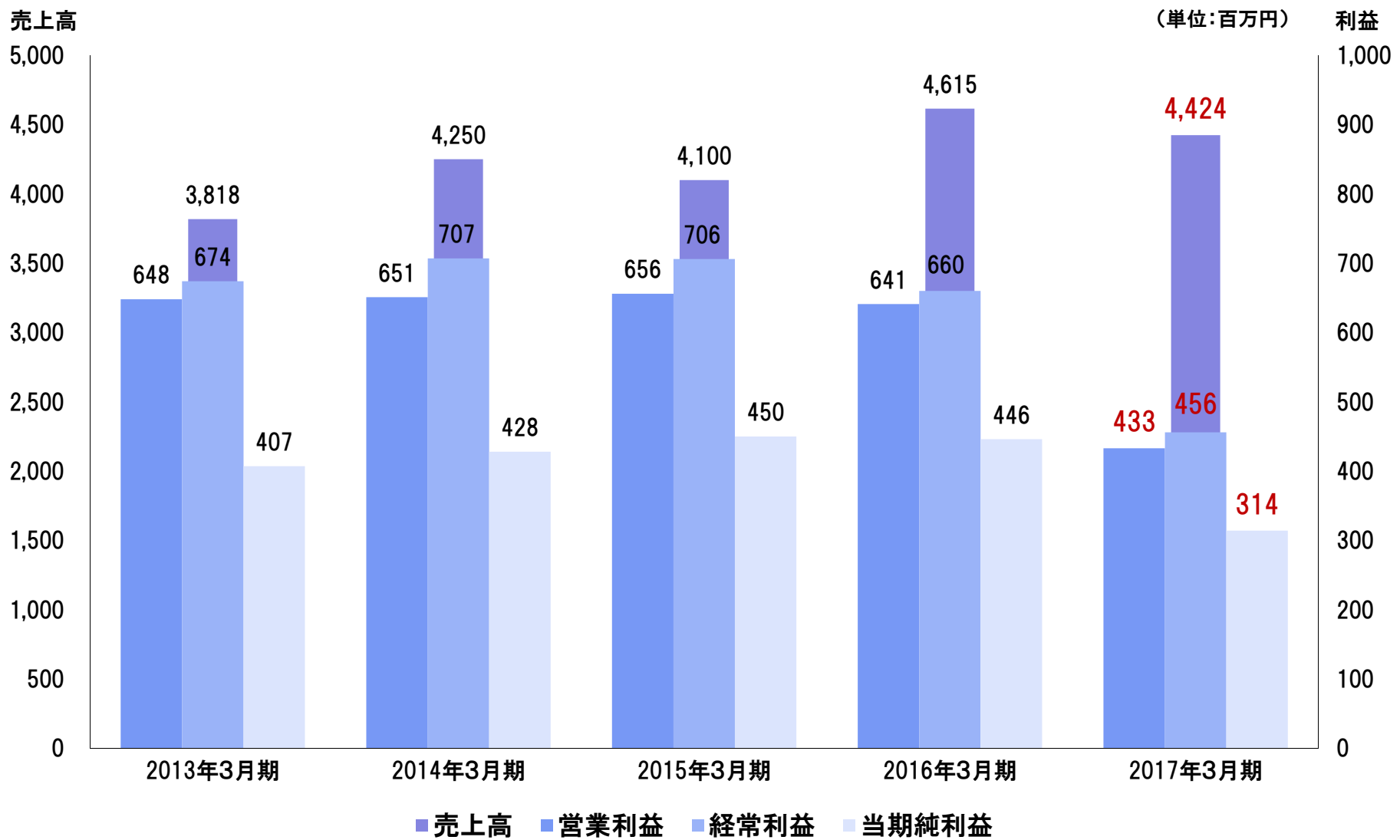
	2016年3月期 (百万円)	2017年3月期 (百万円)	前期比 (%)	修正予想(2月) (百万円)	計画達成率 (%)
売上高	4,615	4,424	95.9%	4,340	101.9%
売上原価	3,438	3,292	95.8%	3,220	102.3%
売上総利益	1,177	1,131	96.1%	1,120	101.0%
販売管理費	535	698	130.4%	700	99.8%
営業利益 (営業利益率)	641 (13.9%)	433 (9.8%)	67.5%	420 (9.7%)	103.1%
経常利益 (経常利益率)	660 (14.3%)	456 (10.3%)	69.1%	440 (10.1%)	103.7%
当期純利益	446	314	70.4%	300	104.8%

売上原価 外注費が大幅に減少(10億円、前年同期比11.8%減、売上高外注比率22.8%、前期24.7%)

販売管理費 ほぼ計画どおり。研究開発費は37百万円(前年同期比112.0%増、20百万円増加)

営業外損益 研究開発の補助金収入はなし(前年同期もなし)

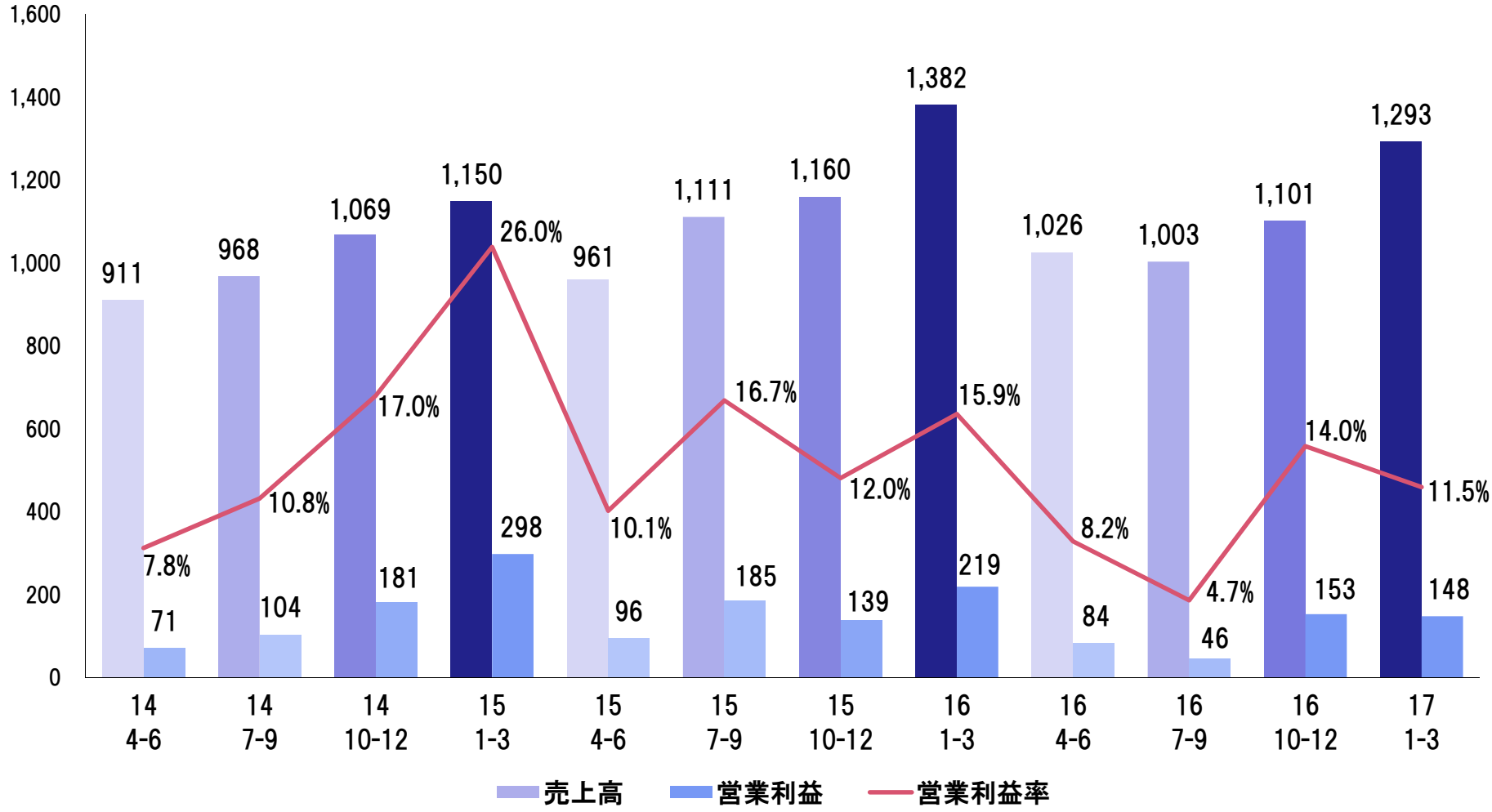
決算業績推移



四半期業績推移(PL)

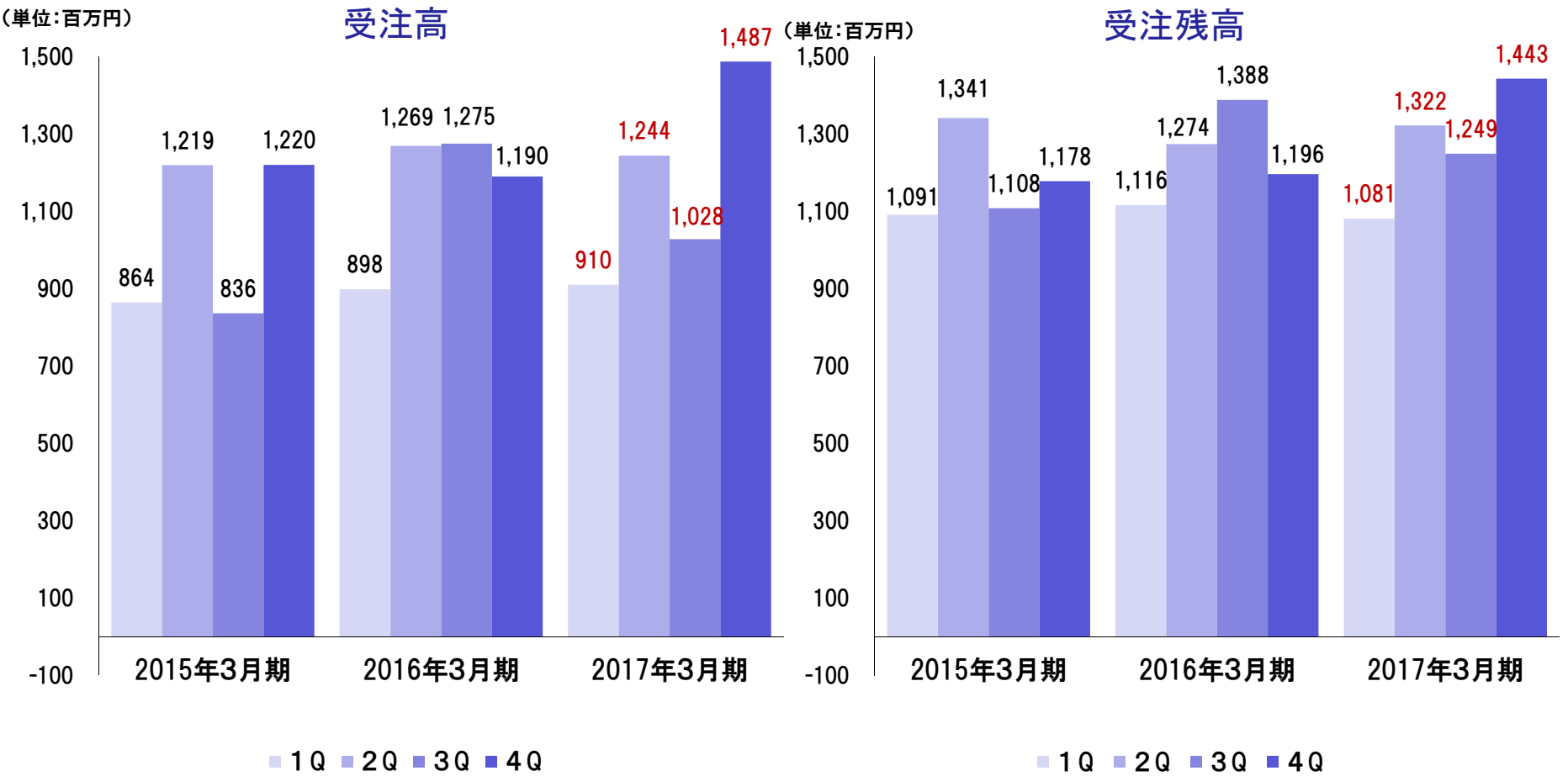
当期は社会基盤システム分野の放送案件の不採算プロジェクトの影響により、第2四半期以降は減収、利益面も第3四半期を除き減益

(単位：百万円)



四半期業績推移(受注状況)

受注高、受注残ともに過去最高



BF別の状況

宇宙先端システムBFが大幅に増加

ビジネスフィールド	2016年3月期		2017年3月期		
	売上高 (百万円)	構成比 (%)	売上高 (百万円)	構成比 (%)	前期比 (%)
モバイルネットワーク	1,487	32.2	1,308	29.6	88.0
インターネット	1,141	24.8	852	19.3	74.7
社会基盤システム	1,357	29.4	1,396	31.6	102.9
宇宙先端システム	627	13.6	865	19.5	137.8
合計	4,615	100.0	4,424	100.0	95.9

- モバイルネットワークBFは、モバイル決済端末や車載情報システムの開発は増加したが、移動体通信事業者向けのサービス系の開発やモバイル放送案件の開発が減少
- インターネットBFは、前期にあった化学メーカー向けの大型案件の開発が完了し減少
- 社会基盤システムBFは、官公庁案件が堅調で増加
- 宇宙先端システムBFは、車両自動走行やロボットの研究開発案件が増加

BF別受注状況

社会基盤システムBFと宇宙先端システムBFが増加

ビジネスフィールド	2016年3月期		2017年3月期			
	受注高 (百万円)	受注残高 (百万円)	受注高 (百万円)	前期比 (%)	受注残高 (百万円)	前期比 (%)
モバイルネットワーク	1,648	358	1,298	78.7	347	97.0
インターネット	1,173	212	814	69.4	174	81.9
社会基盤システム	1,209	470	1,644	136.0	717	152.7
宇宙先端システム	602	155	912	151.6	203	130.4
合計	4,633	1,196	4,670	100.8	1,443	120.6

- モバイルネットワークBFは、モバイル端末の開発が減少傾向にあり受注高が減少、受注残高はほぼ前期並み
- インターネットBFは、前期にあった民間企業向けの大型案件の開発が完了し、受注高、受注残高が共に減少
- 社会基盤システムBFは、官公庁案件が堅調で受注高、受注残高が共に大幅に増加
- 宇宙先端システムBFは、車両自動走行やロボットの研究開発案件が増加、受注高、受注残高が共に大幅に増加

期末貸借対照表

(単位:百万円)

	2016年3月末日	2017年3月末日	増減
流動資産	4,531	4,590	59
固定資産	1,408	1,496	88
流動負債	893	810	▲83
固定負債	125	154	28
純資産	4,919	5,122	202
総資産	5,939	6,087	147
自己資本比率	82.8%	84.2%	1.3%
流動比率	506.8%	566.5%	59.6%
固定比率	28.6%	29.2%	0.6%

流動資産 売掛金が減少したが、現金及び預金の増加による増加

固定資産 前払年金費用、投資有価証券の増加による増加

流動負債 未払金が増加したが、買掛金、未払消費税等の減少による減少

固定負債 繰延税金負債の増加による増加

キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	2016年3月期	2017年3月期	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	673	220	▲452
投資活動によるキャッシュ・フロー	171	▲12	▲184
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲133	▲133	0
現金及び同等物の増減額	711	75	▲635
現金及び同等物期末残高	2,574	2,649	75

営業キャッシュ・フロー 税引前当期純利益、仕入債務の減少などによる収入減

投資キャッシュ・フロー 前期は定期預金の払戻しなどによる収入があったため、前期比では支出増

財務キャッシュ・フロー 配当金支払による。ほぼ前期並の支出

通期業績見通し (2018年3月期)

2018年3月期重点テーマ

既存の分野で業績を支え、オープン・イノベーションで事業成長を目指す

- 既存分野 → 社会基盤システムBFを中心に、業績のベースを確保
- 成長分野 → 車両自動走行、サービスロボット分野を拡大
- アライアンス → AI、ロボットを中心に、大学や国の研究機関との共同研究を推進
ロボットを中心に、他社とのアライアンスを推進

継続的な成長のために、内部体制を強化する

- コーポレートガバナンスの強化 → 経営体制の強化
- 次の成長のための研究開発 → 研究開発のさらなる強化、国の公募案件への参加
- 働き方改革 → 執務環境の改善、設備投資により生産性向上
- 社員を成長させるための教育 → 学ぶ組織を創る、デザイン思考で提案力向上

2018年3月期業績見通し

成長分野へシフトする時期、売上高、利益ともに微増の計画

(単位:百万円)

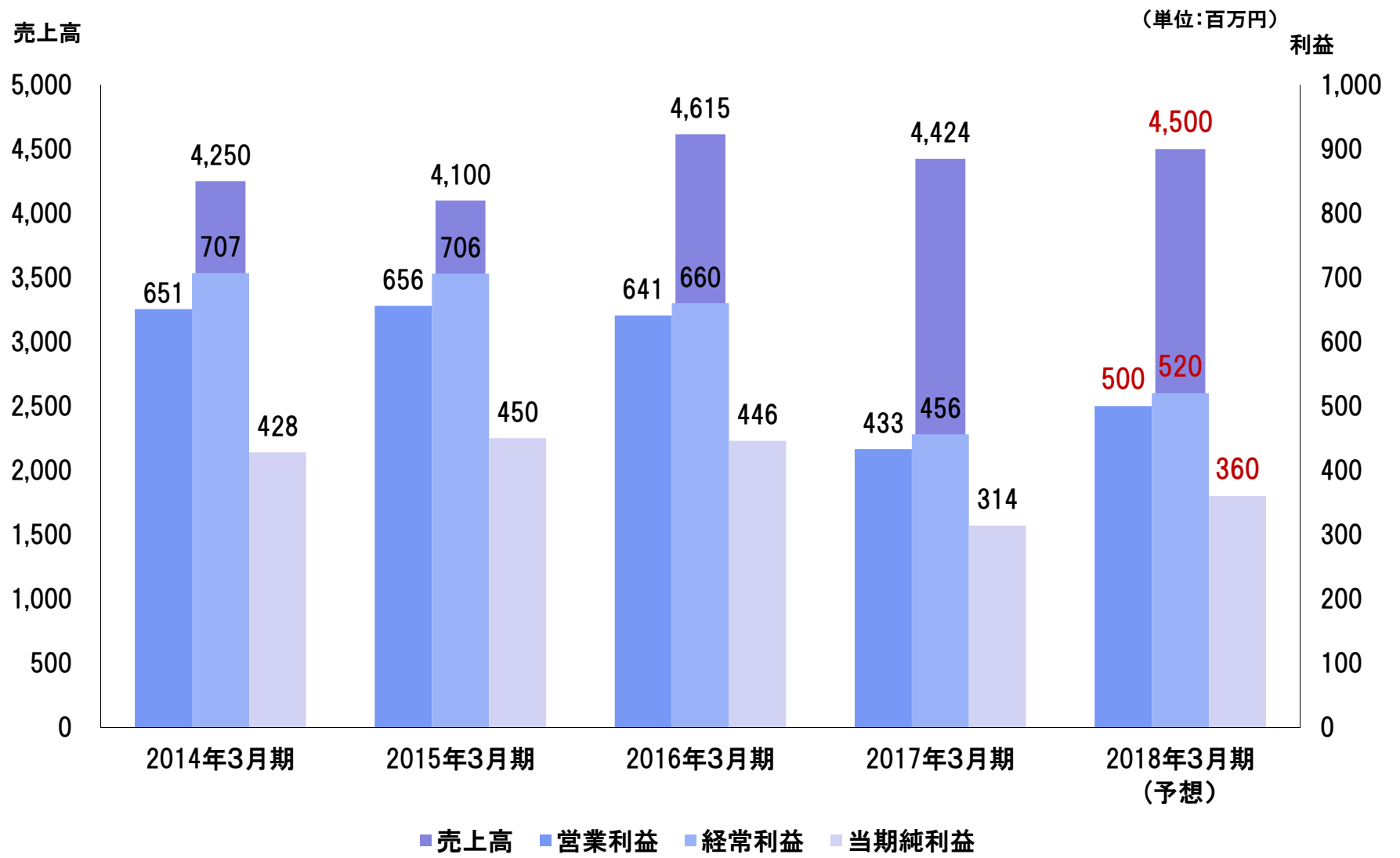
	2017年3月期	2018年3月期 業績予想	前期比 (%)
売上高	4,424	4,500	101.7%
売上原価	3,292	3,270	99.3%
売上総利益	1,131	1,230	108.7%
販売管理費	698	730	104.5%
営業利益 (営業利益率)	433 (9.8%)	500 (11.1%)	115.5%
経常利益 (経常利益率)	456 (10.3%)	520 (11.6%)	114.0%
当期純利益	314	360	114.5%

売上原価 外注費は売上高比20%で計画し、ほぼ前期並み

販売管理費 研究開発への投資などにより増加を見込む

営業外損益 研究開発の補助金収入は見込まず、前期並み

通期業績の推移



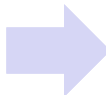
2018年3月期BF別業績見通し

社会基盤システム、宇宙先端システムが増加の見通し

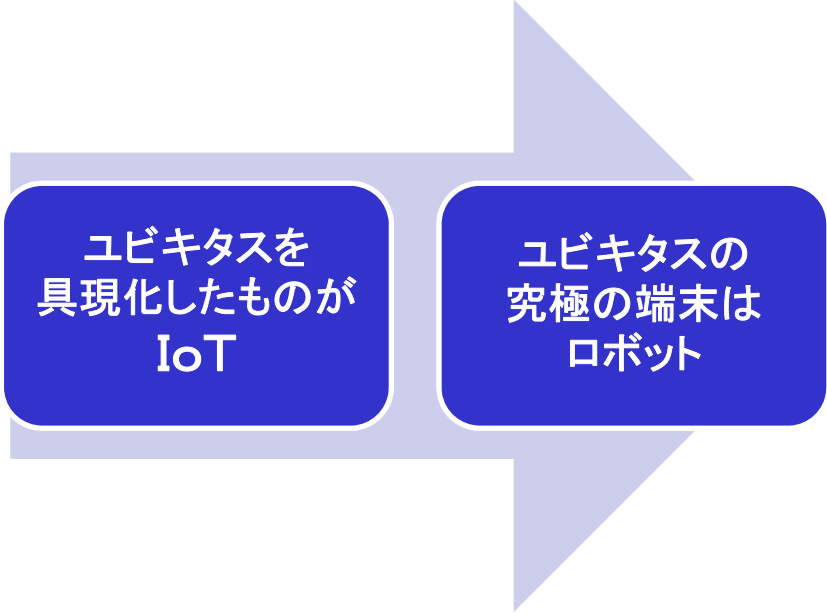
ビジネスフィールド	期初の想定	予想
モバイルネットワーク	移動体通信事業者向けのサービス系の開発とモバイル決済関連の商談は増加するが、スマートフォンなどのモバイル端末の開発が減少し、前期並み	➡
インターネット	民間企業向けは堅調だが、大型案件がなく減少	➡
社会基盤システム	官公庁系が引続き堅調であることに加え、医療分野の商談が増加すると予想されることから増加	➡
宇宙先端システム	車両自動走行の研究開発案件が引続き好調であり、サービスロボットの実用化に向けた研究開発案件も増加して増加	➡

注力分野の状況

研究開発テーマ「ユビキタス (Ubiquitous) 」



基盤技術はリアルタイム技術



注力テーマ

- IoT
 - ウェアラブルコンピュータ
NFC連携研究
 - IoT利活用研究
- AI
 - 機械学習フュージビリティスタディ
 - ロボット用人工知能・機械学習プラットフォーム開発
- ロボット
 - RTMSafetyポーティング
 - ロボット自律移動研究

リアルタイム技術の提供分野は必然的に先端分野

Realtime@IoT (Internet of Things)

ロボットへの取組み

ロボットにシステム工学を！

ユビキタス社会の究極の端末はロボットであるという考え方のもと、2003年から、他のソフトウェア会社に先行して、ロボットの研究開発に着手。

「**ロボットにシステム工学を**」をスローガンに、安全性の高いロボットの早期実現のため、開発期間の短縮、低コスト化の側面から取り組んでいる。



ロボットビジネスの状況

実績 (2017年3月期 売上高約584百万円)
(前期約312百万円 ← 前々期約141百万円)

車両自動走行に実用化に向けた研究開発案件が追加され増加

- 大手自動車メーカー等からの車両自動走行研究ソフトウェアの開発案件が増加
- 大手電機メーカー、機械メーカーからの実用化に向けての研究開発案件が増加
→顧客層が拡大傾向
- 技術的には、ROS、RTM(ミドルウェア)などを使った試作機の開発が主流
- 分野的には、自動車関連、船舶、ドローン、業務用掃除機、農機など広範囲

今後の方針

実用化に向けて、全方位でチャンスを逃さない

- 継続して、標準化技術ビジネス(RTミドルウェア、ROSを使った試作機や教育)
- 商用のロボットの受託開発を推進(大手電機メーカー、機械メーカー、ベンチャーなど)
- 実用化に向けて、自律移動ソフトや機能安全ソフト(RTM safety)の販売促進
- ロボット利活用サービス (コミュニケーションロボットなどを使ったサービス)



ロボットビジネスの方向性

研究開発を継続し、競争優位を確保

実用化に向けて研究開発

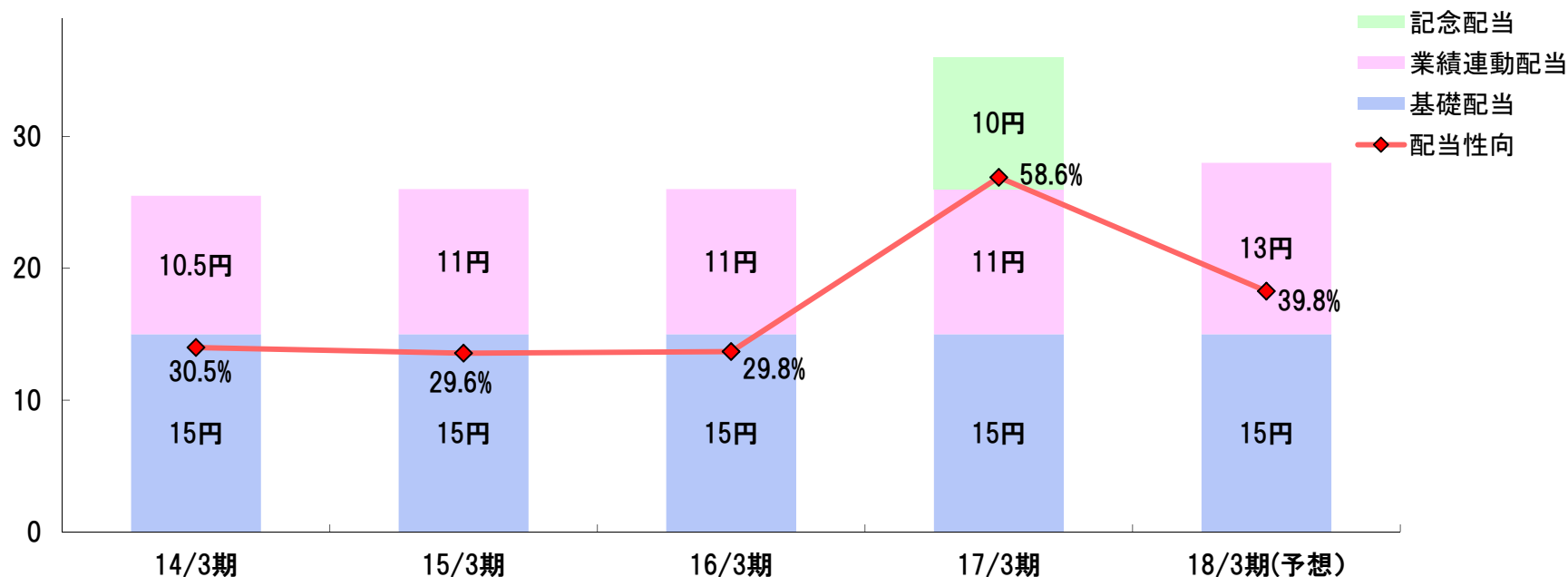
- ロボット自律移動研究
（今までの成果を製品「Rtino」として販売を開始）
- 国のロボット研究公募案件へ応募し、採択されることを目指す
（大学、国の研究機関、他社とのアライアンスで推進）

ロボットとAI（人工知能）をつなぐことを目標として大学と共同研究

- 「ロボットとAI(人工知能・機械学習)をつなぐプラットフォームの研究」
早稲田大学とロボットにも搭載可能な人工知能・機械学習プラットフォームの共同研究を開始
- 「ロボットのAI化に向けての知能処理の回路化の研究」
九州工業大学とロボットの知能処理の回路化とロボットプラットフォームへの適用に関する共同研究を開始

配当の方針

- 原則として安定的に配当する部分と所定の配当性向とを勘案して毎期決定する。
配当性向の目安を今期より30%から40%にアップする。安定的に配当する部分は1株当たり15円とする。
- 2018年3月期は1株当たり28円の配当予想とする。



※2016年10月1日付で、1:2の割合で株式分割を実施していますが、2014年3月期の期首に株式分割を実施したものと仮定して配当金を表示しています。

- この資料の目的は、当社へのご理解を深めていただくためのIR情報をご提供することであり、投資の勧誘を目的としたものではありません。投資につきましては、ご自身でご判断願います。
- この資料には、当社の現在の計画、戦略、将来の業績に関する見通しなどが記載されております。こうした記述は、当社の将来の業績を保証するものではなく、経営環境をはじめ、さまざまな外部的要因の影響等により変化しうることをご承知おきください。
- この資料の作成に際しましては、細心の注意を払っておりますが、内容につきましてもいかなる保証を行うものでもなく、この資料を使用したことによって生じたあらゆる損害などについて、当社は一切責任を負うものではありません。